

西東京市 図書館だより

平成26年(2014年) 1月15日

第52号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



仲よしの鳥と花
けやき小4年

手にした本を次の読者に

ここ数年、貸し出された図書館資料が傷んで戻ってくるが増えています。水ぬれ、コーヒーの染み、切り取り、書き込み…。ガムが付着していたり、食べ物やたばこのにおいが染み込んでいたり、焼け焦げがあつたりする場合があります。また、新町分室・保谷駅・東伏見駅に設置している図書返却ポストに飲み残しが入ったままのペットボトルやゴミが放り込まれて、中の資料が汚されることも度々起きています。

汚れたり、破損したりした資料が見つかったら、汚れをふきとったり、乾かしたり、鉛筆で書かれた書き込みを消したりして、利用者のみさんに気持ちよく使ってもらえるように対処しています。しかし、ほとんどの場合、元の状態に戻すことはできません。二度と手に入らない場合や類書がない場合など、汚・破損資料をそのまま保存することもあります。貸し出しに適さないと判断した資料は、やむを得ず廃棄することになります。

資料は、利用されるほど傷むものです。印刷資料の保存には限界があり、いずれは廃棄されます。ただ、多くの人に読まれた後、廃棄される資料と、故意に汚されて廃棄される資料とは、その意味が異なります。

『脳をはぐくむ―新・子育て学―』(久保田競著・久保田カヨ子著、N G S)という本があります。一九八五年六月に出版されたこの本は、二〇〇一年以降、借りられることなく、ひばりが丘図書館の書庫で保存されていましたが、二〇〇九年から現在に至るまでは、六〇回、ほぼ毎月貸し出されています。テレビ番組で紹介されたことがきっかけとなつたようですが、二〇〇九年当時は、絶版となっていた本でした。この本を手にした方たちが大切に扱い、図書館が保存していたからこそ、出版から二十年以上経つてからも、多くの市民の「読みたい」という要望に応えられたのだと思います。

図書館の資料は、市民の共有財産です。その中には未来の読者も含まれるでしょう。読み継がれてきた図書館の資料を次の読者に届けるために、大切に扱ってほしいと思います。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

「デジタル図書が増えまじせ」 ハンディキャップサービス

カセットテープから デジター図書へ

ハンディキャップサービスでは、視覚に障がいがある方や、出版された本をそのままでは読むことができない方などが図書館を利用して読書をするための支援をしています。

これまで、耳から読書を楽しむ録音図書はカセットテープが主流でした。しかし、最近ではパソコンでCD-ROMに録音・編集して専用の再生機で聴く「デジター図書」が一般的になりました。

デジター図書の最大の利点は、聴きたい箇所を瞬時に選ぶことができたり、「しおり」を複数つけて、後で聞き返すことができたりすることです。まさしく活字の本を読むようなスタイルで聴けるようになったのです。

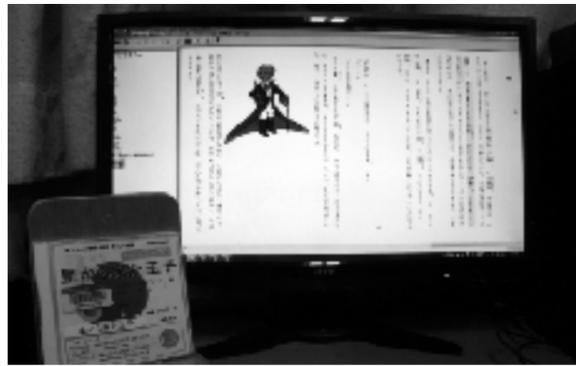
また、カセットテープは時間が経つほど劣化が著しく、長期保存は不可能です。一巻で録音できる時間も限られ、作品によっては巻数が多くなり、保管場所の確保も課題でした。しかし、デジター図書は一枚のCD-ROMに五〇時間もの収録が可能であり、音質の経年劣化が少なく、半永久的な保存が見込めます。

そこで、図書館では、今年度、緊急雇用創出事業を活用して、これまで

作製してきたカセットテープの録音図書をデジター図書に変換する作業を行っています。最終的には約一七〇タイトルのデジター図書が完成する予定です。

マルチメディアデジター

さらに、最近では、視覚に障がいがある方だけでなく、読み書きに困難を伴うディスレクシア(識字障がい)の方や知的障がいがある方、認知症の方の読書を支援するものとして、「マルチメディアデジター」が開発されています。



マルチメディア デジター

マルチメディアデジターは、音声にテキストと画像を組み合わせたデジターです。パソコンやタブレット端末上で専用再生ソフトを使用すると、再生速度・文字の大きさ・背景とのコントラストの変更ができます。読まれている箇所の文字の背景の色が反転して表示されるので、視覚聴覚両方の器官を使って理解することができます。日本での普及はこれからですが、アメリカでは、ディスレク

平成24年度 図書館事業評価の概要

事業計画に基づき、平成二十四年度の図書館事業評価を行いました。成人・児童・地域行政資料・レファレンス・ハンディキャップの各サービスや、情報システム、図書館資料の収集と保存、平成二十四年度重点事業について等、全十八項目について、図書館内での自己評価(一次評価)を行ったうえで、図書館協議会に数値指標と一次評価結果を提出し、二次評価を受けました。図書館事業評価の項目内容については「評価が細かすぎる。評価項目を抑えるべき」との昨年度の評価を受け、今年度は各事業の中で評価項目を主要事業に絞り込みました。

二次評価では、次の事業について、おおむね高い評価を受けました。
① 情報システムの整備の項目で二十

シアの学生のために無償でマルチメディアデジターの教科書が支給されているなどの実績があります。
西東京市図書館では、童話などの市販されている児童向けマルチメディアデジター図書を五〇タイトルほど購入しました。
図書館では、「読むことが困難な方」に、それぞれの状態に合った効果的な読書の支援をしていますので、お気軽にお問い合わせください。

三年度の中央図書館に引き続き、保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館にも予約棚システムを導入したことについては、「カウンター業務の充実」は評価できるとしたうえで、自働貸出機に慣れない利用者への対応についてアドバイスを受けました。
② 成人サービスの「同一テーマによる全館統一資料展示の実施」については、アイディアはすばらしく、今後の一層の充実を望みたいという評価を受けました。

③ 平成二十四年度重点事業のうち、柳沢・ひばりが丘図書館の祝日開館及び平日午後八時までの開館延長については「開館時間の延長を図った点を評価したい。今後、市民のニーズを把握し、一層のサービス向上を図っていただきたい」という評価でした。
なお、結果は、館内掲示と図書館ホームページで公開しています。

図書館だより版 にんにん西東京 第4回「今はない研究施設」核研と電総研

かつて西東京市内には二つの研究施設がありました。一つは、緑町三丁目、現在の西東京いこいの森公園の地にあった東京大学原子核研究所(通称「核研」)、もう一つは、向台町六丁目、現在の都立田無高等学校・市民公園グラウンドの地にあった通商産業省工業技術院電子技術総合研究所(通称「電総研」)田無分室です。

東京大学原子核研究所

日本における原子核研究の歴史は古く、戦前、アメリカに次ぐほどの加速器設備を有していました。しかし、昭和二十年(一九四五)の敗戦後の占領下で原子核研究はGHQにより禁止されました。主権回復後の昭和二十八年(一九五三)五月、日本学術会



東京大学原子核研究所(昭和41年ごろ)

議は「原子核研究所設置勧告書及び設立趣意書」を決議、この勧告に基づき、翌昭和二十九年(一九五四)七月、東京大学原子核研究所が田無町(当時)の東京大学農学部附属農場の一部(45521m)に建設されることと決定しました。

しかし、日本は人類初の被曝国であることや、同年三月にアメリカのビキニ環礁での水爆実験により第五福竜丸が被曝した事件が起きたこともあり、町では設立反対の声が上がりました。田無町議会は反対決議をし、同年七月、東京大学総長あてに設置反対の要請書を提出しています。菊池正士博士、朝永振一郎博士らと町長・町議会議員との話し合いや研究者有志と町民有志との懇談が行われ、その結果、十一月には工事着工となり、昭和三十年(一九五五)七月、核研が設立されました。

昭和五十五年(一九八〇)四月には空芯β線スペクトロメータ実験室内でカリフォルニウム252による汚染事故が起こりましたが、半年に及ぶ事故処理により外部への汚染はありませんでした。

平成九年(一九九七)四月、三つの研究所の統合により高エネルギー加速器研究機構(KEK)が発足すると、

核研はKEK田無分室となり、平成十三年(二〇〇二)三月、つくば市へ移転しました。

核研は、四十三年間にわたり日本の原子核物理学の拠点として、その発展の礎となりました。原子核・素粒子・宇宙線物理学・物質構造科学など様々な分野で研究成果を生んでいきます。また、ノーベル賞を受賞された小柴昌俊東大特別栄誉教授を始め、世界各地で活躍する研究者も輩出しています。跡地の西東京市いこいの森公園には、「原子核研究所址碑」が建立されています。

通商産業省工業技術院 電子技術総合研究所田無分室

通商産業省工業技術院電子技術総合研究所は、明治二十四年(一九一)、通信省電務局内に「電気試験所」として創設されました。大正七年(一九一八)電気試験所官制が公布されると、通信大臣直轄の独立した組織として、電信電話事業と電気事業の発展に貢献しました。田無分室(81400m)が新設されたのは、昭和十四年(一九三九)のことです。

戦後、占領下にあった昭和二十三年(一九四八)、GHQの勧告により電気部門と通信部門とを分割、前者は商工省(昭和二十四年「通商産業省」と改称)の外局として設置された工業技術庁(昭和二十七年「工業技術院」となる)に移管されて「電気試験所」



皇太子殿下、電総研を視察(昭和45年)

の名を継承しました。後者は通信省に残り、「電気通信研究所」(昭和二十七年電電公社に移る)として発足しました。

昭和二十九年(一九五四)、電子部が新設され、電気・電子技術分野における唯一最大の国立試験研究機関となりました。国内初の通信機開発やIC(集積回路)の発表、世界に先駆けたトランジスタ形電子計算機の開発など、電子・エネルギー・情報技術各分野で研究実績を残しています。昭和四十五年(一九七〇)、組織再編により「電子技術総合研究所」と名称変更されました。現在は、旧通商産業省工業技術院の他の研究所等と統合・再編され、「産業技術総合研究所」となっています。

田無分室は、昭和五十五年(一九八〇)、都内にある電総研の他の施設と一緒につくば市へ移転しました。

私が本を読むようになったのは恥ずかしながら最近です。きっかけのひとつは、ネットで「読書メーター」という本好きな人が集まって読んだ本の感想や意見の交換ができるサイトを見つけたこと。もうひとつは、図書館のホームページで予約できること！これが元来面倒くさがりな私と図書館との距離をさらに縮めることになりました。自分の中で化学反応が起こり、今まで読んでいなかった分の活字を取り戻すかのように読みあさっています。

図書館に通うようになったのは、もう少し前で、やはり子どもができてからです。お腹にいるころは名づけの本、産まれてからは育児本、長女が幼稚園のころは絵本を読ませたくて通いました。そして、長女が小学生になると、読書感想文や自由研究、自由工作のための資料集め。長男はのりもの本、次女はアンパンマン大好きで、まだまだ図書館ライフは続きそうです。

妻も本好きで、図書館が近いので、休みの日に散歩がてら家族で行くと、目当ての本がなくても一



日がつぶれてしまいます。急に「あの本！こんな本！」となっても大丈夫。司書さんに聞くと少ないヒントで丁寧に教えてくれます。

振り返ってみると、自分の人生と図書館は密接になっていていると思います。手を伸ばせばそこにある。身近な本棚？いや、うちの本棚！

すてきな空間、可能性の広がる場所、本と人との出会いの場、全部詰り込んで大きな宝箱。これからもよろしく願います。

最後に前述した読書メーターのような読んだ本を登録したり、感想を書き込めるようなコーナーが西東京市図書館のホームページにあるといいなと思います。一度借りた本を間違って借りてしまったり、予約してしまったりとも減ると思うし、「一言感想」でもあれば、知らない本との出会い、巡り合えると思います。難しいかもしれませんが、たくさんの人たちやたくさんのお客さん（お客さん）が持っている嬉しいなあと思います。

これからも、みんなみんな、すてきな人、すてきな本と出会えますように…。

特別休館のお知らせ

図書館システム入れ替えのため、西東京市図書館は、左記の期間、全館一斉に休館します。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

休館期間 2月12日(水)～28日(金)

休館期間中の資料の返却について

- ①本・雑誌は、各館や保谷庁舎、保谷駅、東伏見駅に設置しているブックポストにお返しください。
- ②CDと他の公共図書館からの借用資料、大型本等は、3月1日以降に図書館カウンターへお返しください。

休館期間中の各種サービスについて

図書館システムの休止に伴い、次のサービス等は利用できなくなりま

図書館ホームページの利用

休館期間中、図書館ホームページを閉鎖します。図書館ホームページ上の資料検索や予約、利用状況の確認等はできません。ただし、図書館からのお知らせは準備が整い次第、公開します。その際、市ホームページでご案内します。

【閉鎖期間】

2月11日(火)午後6時
～3月1日(土)午前10時

※資料の予約・リクエストの受け付けは、2月11日(火)午後6時まで。

図書館電話サービス(CTI)の利用

図書館電話サービスは、2月11日(火)午後6時から3月1日(土)午前10時まで、利用できません。

電話による各種問い合わせ

- ①電話で資料の予約やリクエストを受け付けることはできません。
- ②次の事柄に関する問い合わせにはお答えできません。

- ・資料の検索に関すること
- ・予約や貸出状況の確認など、個人の利用状況に関すること

東伏見ふれあいプラザの図書サービス

休館期間中は、利用できません。

※詳細については、館内ポスター、チラシ等でお知らせします。

問合せ 中央図書館

☎042-465-0823



現在の検索や予約などのサービスはコンピュータ・システムがあるからこそできるものです。しかし、今後進化するであろうシステムも、人が使わなくては意味がありません。システムの使い方の案内や活用方法の紹介、調査・研究の支援は、知識と経験を持つ職員の役目です。システムと人の強みを組み合わせ、よりよい図書館サービスの提供に努めていきたいと思っています。